

令和 6 年度

# 「運営に関する計画」



大阪市立鶴見橋中学校

令和 6 年 4 月

大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

**現状と課題**

全国学力・学習状況調査結果等から、生徒たちは興味・関心をもって学習に取り組んでいるものの学力向上に十分結びついていない現状が見られる。日々の教育活動を通じて、より深く生徒理解に努め、基礎学力の定着・向上を図り、子どもたちが自立するために必要な力を身につけさせる必要がある。また、本校の人権教育の取組を充実させ、「いのち」や「つながり」を大切にする教育活動を展開し、自尊感情の育成に努める。それらのことを踏まえ、次の３点について学校課題として取り組む。

- ①子どもたちが自立し、将来の『社会の形成者』となるような取組
- ②『いのちの大切さ』『人と人とのつながり』を大切にする教育の取組
- ③自己実現を図る教育の取組

**中期目標**

**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を令和 3 年度と比較し減少させる。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均の割合をいずれの学年も 0.8 以上にする。
- 令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合をいずれの学年も 50%以下にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、対全国の 1.1 倍にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を 100%にする。
- 教員の勤務時間の時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下を満たす教職員の割合を 50%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査における CEFR AI レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 30%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業数日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ⅰを満たす教職員の割合を 50%以上にする。

### 【その他】

## 3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式 2)

## 大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b> ○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。 ○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ○「いのちの学校」を目標に掲げ、生徒向けの授業が展開できるよう学年ごとにカリキュラムを作成し、授業力向上の研修を図る。	
指標 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ○自尊感情を高め、道徳心・社会性を育成するための人権に関する取組を、学校全体として年 3 回(平和登校日・人権集会・人権作文発表会)以上実施する。	
指標 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ○自分たちの地域や将来について考える取組を、地域の方と学校が連携して毎週 1 回(火・木)以上実施する。	

<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで、「将来の進路や生き方について考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○週 1 回、ユネスコタイム(朝鮮問題研究会・多文化学級・同和教育・支援教育)に取り組み、国際理解教育を深め、国際社会を生き抜く力を育む。</p>	
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで、「様々な国や文化について学んだことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○支援教育に関する校内研修を年 1 回以上実施する。</p> <p>○支援教育の巡回指導を年 1 回以上活用し、個別の支援内容の共有を図る。</p>	
<p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</p> <p>○保護者対象のアンケートの「学校は、学習のつまずきによく対処してくれている。」について、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</p>	
<p>取り組み内容⑥【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○学校規模ポジティブ行動支援の考えに基づき、目指すべき生徒像「鶴見橋中 3 つの T」を策定し、今年度の教育活動の基礎として位置づけ、生徒へのフィードバックを行う。</p>	
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートの「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答の割合を 70%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

## 大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> ○中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。 ○大阪市英語力調査における CEFR AI レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 30% 以上にする。 ○年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】 ○国語科の授業において読解力向上教材や新聞等を活用し、言語能力の向上を図る。 ○漢検を全校で実施する。 ○生徒が主体的に ICT を活用した授業へ取り組む。	
指標 ○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70% 以上にする。 ○漢検において、5 級の合格率を昨年度より向上させる。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】 ○数学科の授業において反復した演習により、基本的事項の定着を図る。 ○生徒が主体的に ICT を活用した授業へ取り組む。	
指標 ○生徒対象のアンケートで「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 60% 以上にする。 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 60% 以上にする。	

<p>取組内容③【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】 ○英語検定、GTEC を実施する。また、それらの取組の対策を実施し、基礎学力の向上を図る。</p>	
<p>指標 ○英語検定において、５級の合格率を前年度より向上させる。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向７ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○すべての教職員が年１回以上の研究授業を行い、相互参観、指導助言をすることで授業力向上を図り、生徒がわかりやすい授業を目指す。</p>	
<p>指標 ○生徒対象アンケートの、「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】 ○朝の学習、放課後学習に全校で取組み、学習習慣を身につけさせ、基礎的学力を向上させる。</p>	
<p>指標 ○チャレンジテストにおける得点が府平均の７割に満たない生徒の割合を同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向５ 健やかな体の育成】 ○縦割りで行う球技大会をはじめとして、各学年で３時間以上の体育的行事に取り組む。</p>	
<p>指標 ○生徒対象アンケートの、「運動やスポーツすることが好きである」に対する肯定的回答の全教科の平均を80%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

(様式 2)

## 大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b> ○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 50% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ○校内研修支援事業を活用し、全教科で生徒が主体的に ICT を活用した研究授業を年間 1 回以上実施する。	
指標 ○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を 80% 以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ○各種学力調査データを教科担当が分析し、PDCA サイクルを回す。	
指標 ○教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」について肯定的な回答の割合を 80% 以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○サポーターを組織的に活用し、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保する。	
指標 ○毎月の 45 時間以上の時間外勤務時間の教職員の割合を 50% 以下にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	



次年度への改善点

## 大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容【各教科】</b> <b>【国語】</b> ○漢検を全校で実施する。 ○KODOMO 新聞や読解力向上教材を活用し、言語能力の向上を図る。 ○ICT を活用し、自主学習の教材を充実させて、表現力や判断力の向上を図る。	
<b>指標</b> ○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。 ○漢検において、5 級の合格률을昨年度より向上させる。	
<b>【社会】</b> ○ICT を活用し、多くの資料を提示することで理解しやすい授業を行う。 ○授業の最初に「最近のニュース」の動画を流し、世界や日本の出来事に対する興味関心を向上させる	
<b>指標</b> ○生徒対象のアンケートで「社会の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。	
<b>【数学】</b> ○ICT を活用し、数学への興味・関心を高める。 ○基本的事項の習得に向けて、プリントなどを活用し反復して演習を行う。	
<b>指標</b> ○生徒対象のアンケートで「数学の授業はわかる」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。	
<b>【理科】</b> ○実験や観察などの体験的な授業を積極的に行い、基礎知識や実験技能の向上を図る。 ○スライドやデジタル教科書などの視覚教材を活用し、基礎知識の向上を図る。 ○夏の自由研究やパソコンを用いた調べ学習など学習を深める取り組みを行い、思考力や判断力、表現力の向上を図る。	
<b>指標</b> ○生徒対象のアンケートで「理科の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。	
<b>【英語】</b> ○ICT を活用し、音声による主体的で対話的な活動を設け、英語に対する興味・関心を高める。 ○語彙力と文法力を高め、英文を早く正確に読む思考力・判断力をつける。	

<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。</p>	
<p>【音楽】</p> <p>○ICTを活用し、音楽に対する興味・関心・意欲を高める。</p> <p>○楽曲理解を深める活動を行うことで、個々の思考力・判断力を育て、考えたことが表現力を高めることに繋がる授業計画を実施する。</p>	
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「音楽の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。</p>	
<p>【美術】</p> <p>○グループワークや発表の機会を設け、主体的・対話的な授業をめざす。</p> <p>○单元ごとに冊子を作り、授業の進行具合を明確にして、生徒の興味・関心を高め、美術活動に対する意欲を伸ばす。また、提出率を80%以上にする。</p>	
<p>指標</p> <p>○各单元において自己評価を充実させて、言語能力を高めていく。</p> <p>○授業アンケートの「授業を受けて、その内容に興味関心や意欲を持つようになっていくか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p>	
<p>【保健体育】</p> <p>○体づくり運動を体育の授業で毎時間、継続的に取り組むことで、基礎体力の向上を図る。</p> <p>○週に1回以上、試合で仲間と共に考え、協力して取り組める機会を作る。</p> <p>○生徒が安全に取り組めるように、準備運動を毎時間徹底し、学習環境の整備をする。</p>	
<p>指標</p> <p>○興味・関心・意欲の向上に対する肯定的な回答を70%以上にする。</p> <p>○「授業の内容が分かるようになっていきますか」に対する肯定的な回答を70%以上にする。</p>	
<p>【技術家庭】</p> <p>○情報モラルや情報リテラシーについて取り組む。</p> <p>○家庭生活の衣食住について興味を持ち、家族と話せるように取り組む。</p> <p>○SDGsのエネルギー分野での知識を深める。</p>	
<p>指標</p> <p>○「授業内容が分かる」の回答を60%以上にする。</p>	

	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
--	-------------------------

国語	○ ○
社会	○ ○
数学	○ ○
理科	○ ○
英語	○ ○
音楽	○ ○
美術	○ ○
保健 体育	○ ○
技術 家庭	○ ○

## 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

## 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	<p>年々、落ち着いて行動できるようになってきている。</p> <p>感情をコントロールするのが苦手な生徒も少しずつではあるが、コントロールできるようになってきている。</p> <p>しかし、現状生徒間での些細なトラブルはまだ多い。休み時間の見守り等を行ってもらっているが、今後も継続して見守ることが必要である。</p>
②いじめの状況等	<p>日常の生徒の様子を担当中心に多くの先生で見守りながら気になる生徒がいたら、声かけをしている。SNS、特に「LINE」のグループ内やグループ間での人間関係がトラブルの原因となることが多いので、スマートフォン等の使い方やマナー等を生徒・保護者に啓発しているが、今後も継続して啓発することが必要である。</p>
③小・中・義務教育学校における不登校の状況等	<p>不登校の主な理由としては、不安傾向が多い。また、多くの生徒が小学校時代から不登校傾向である。不登校生徒として位置付けているが、出席数が増えている生徒もいる。</p> <p>取組としては、遅刻不登校委員会において、対人面、学習面の両面から分析を行うとともに、大学教授にアドバイザーとして助言をいただいている。</p> <p>まだまだ基本的生活習慣（昼夜逆転）が身に付いていないことが原因で欠席数の多い生徒、人間関係や学業の不振が欠席の原因と思われる生徒が主である。中学校だけでなく、小学校・保護者への協力を得ながら、根気強く指導を継続していくことが今後も課題である。</p>